

市長記者会見



本日の案件

- 1 **IWAKI ハコモノ ステキ 最適化 プラン**
～「個別施設計画」の策定について～
- 2 **(仮称) 勿来地区官民協働勉強会について**

令和 6 年 5 月 28 日

市長記者会見

案件①

IWAKI ハコモノ ステキ 最適化 プラン

～「個別施設計画」の策定について～



～『個別施設計画』の策定について～

1. 「個別施設計画」策定の背景
2. 「個別施設計画」の位置付け
3. 市民対話の進め方
4. 個別施設計画に基づくシミュレーション

～構造改革の一環として～

公共施設等の最適化は、限られた行政資源を真に必要な施策へと再投資していくといった理念を持つ構造改革の一環として取り組んでいます。

個別施設計画を市民の皆様と共有し、公共施設等の質・量の最適化を図ることと、本市の持続可能な行財政運営を実現して参ります。



1 「個別施設計画」策定の背景 ～なぜ今公共施設等マネジメントが必要なのか～

- ▶ 公共施設等の数が極めて多く、人口当たりの量は中核市(62市)のなかで7番目に多い状況。
- ▶ 公共施設等全体の約4割が概ね築40年以上経過した旧耐震基準に該当する建物。
- ▶ 同時に、人口減少(2060年には半減)に伴い、税収減などにより財政的な制約がさらに厳しくなる想定。
- ▶ 公共施設等の数量・規模が市の財政の身の丈に合わなければ、施設を安全に保っていくことは困難。
- ▶ 現状の数を維持した場合、財政状況の悪化から他に真に必要な政策に財源を充当できない可能性がある。

(将来人口推計) 第2期いわき創生総合戦略

(改修等将来コストの見通し)

350,237人

173,782人

人口半減

2015年

2060年

今ある施設を
すべて維持するには
4倍の予算が必要

53億円/年

中期財政計画
(R3～R7の財政見通し)

208億円/年

30年間試算平均

[例] 消滅可能性都市の指標である女性減少率は、浜通りは45.5%[注]

かろうじて、5割を切っているものの、子育て支援への充当が困難になれば、**消滅可能性都市へ向かって加速する可能性**

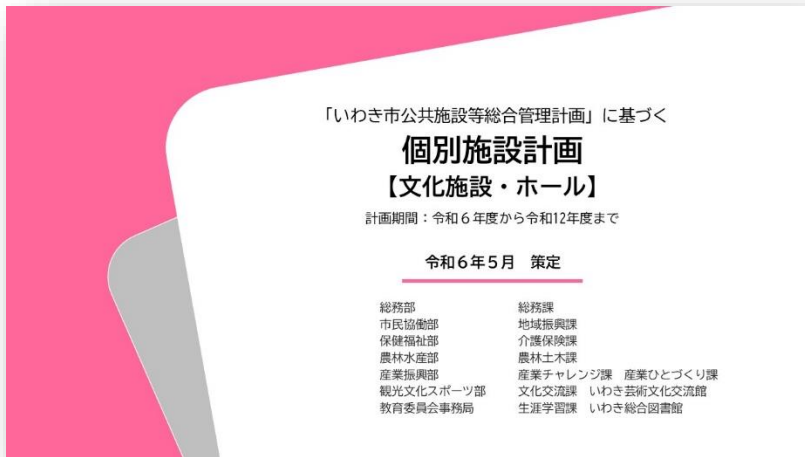
(参考)

浜通りの2020～2050年の20～30代の女性減少率(人口戦略会議2024年4月公表)

②「個別施設計画」の位置付け ～どのような役割を持つ計画なのか～

- ▶ 策定済の「いわき市公共施設等総合管理計画」の目標を具現化するため、**個別施設の今後を見える化する**。
- ▶ 同時に、個々の施設の今後のあり方について、**市民の皆さんと共有するための計画**として位置づけ。
- ▶ 個別施設計画を基に、市民の皆さんと今後の方向性について意見を交わす「**市民対話**」を実施。
- ▶ 今後の「市民対話」の状況などを踏まえて、定期的に内容の更新や修正を図る「**生きた計画**」とする。

【個別施設計画】



資料編

【施設カルテ(公表済)】

施設名称	所在地	施設種別	施設面積	延床面積	収容人数	利用時間	利用料	管理費	修繕費	その他
いわき市立中央図書館	いわき市中央	図書館	1,234.56㎡	2,345.67㎡	1,000人	9:00-18:00	無料	100万円	50万円	10万円

【劣化度診断報告書】

施設名称	劣化度	劣化要因	劣化対策	劣化対策費	劣化対策効果
いわき市立中央図書館	劣化度	劣化要因	劣化対策	劣化対策費	劣化対策効果

- 施設ごとの古さや今後の方向性、検討スケジュール等を明示
- 施設の今後の方向性を示し、市民の皆さんとの対話のツール

- 各施設の基礎情報や財務情報などを表したデータ
- 各施設の棟ごとの劣化度診断の結果を表したもの

- ▶ **複合化を前提としていない施設** (Ex. 宿泊施設、キャンプ場など) は、利用状況をはじめとした施設の現状を踏まえ、将来を見据えた施設のあり方について、**適切なタイミングで丁寧な対話を実施**。
- ▶ **複合化などを想定している場合** (Ex. 支所、公民館など) は、老朽化度合いなどを踏まえて、今年度から**緊急性の高いエリアから順次**、市民対話(意見交換)を実施。【今年度下半期から本格開始予定】
- ▶ 適宜、市議会への情報提供や意見交換などを実施。
- ▶ 「市民対話」、市議会との意見交換などを踏まえ、**毎年度、進捗状況を公表**。

複合化を前提としていないもの
(Ex. 宿泊施設・キャンプ場・観覧施設など)



複合化などを想定しているもの
(Ex. 支所・公民館・図書館・消防署など)

Step 1 対話の時期と対象者・
手法等の検討



Step 2 市民対話 (意見交換)



Step 3 市民対話を踏まえ施設の
あり方を整理



Step 1 プレ市民対話 (地域の
主要団体からの意見聴取)



Step 2 市民対話 (意見交換)



Step 3 市民対話を踏まえ
拠点機能のあり方を整理

4

個別施設計画に基づくシミュレーション ～見直しによる効果(施設数編)～

- ▶ 目標設定をした令和3(2021)年4月から令和6(2024)年4月までの間に**35施設減少**。
- ▶ 個別施設計画、**「あり方見直し」及び「廃止」等とした施設を全て廃止すると仮定した推移**を試算。
- ▶ **施設数を減らすことが目的ではありませんが**、人口や財政規模に合った適正量を見極める必要がある。

短期目標＜～R7（2025）年度＞

民間代替性の高い施設を中心に
維持管理・更新コストを6億円縮減

中期目標＜～R12（2030）年度＞

方向性を「あり方見直し」とした
施設※の検討結果を実現

※旧耐震基準施設は、縮減を念頭に整理する方向性

長期目標＜R13(2031)年度～＞

公共施設等全体の
質・量のさらなる最適化

2021.4.1【基準値】

1,316

▲78

2026.4.1

1,238

▲257

2031.4.1

981

▲308

2060頃

673

2024.4.1【実績値】

1,281

▲35

▲43

POINT

当然、「あり方見直し」とした施設を全て廃止する
というものではありませんが、「あれも、これも」ではなく、
「あれか、これか」の視点で一緒に考えましょう

4

個別施設計画に基づくシミュレーション

～見直しによる効果(コスト編)～

- ▶ 令和3(2021)年4月から令和6(2024)年4月までに維持管理コスト等を**約3.2億円を縮減**。
- ▶ 施設の機能類型別に1年あたりの平均コストをベースとして、縮減コストをシミュレーション。**仮に**個別施設画上「あり方見直し」及び「廃止」とした施設を全て廃止したとしても、**不足する150億円に及ばない**。
- ▶ 施設の**合理化は進めるが、質の高いサービスは堅持**する**いわきモデル**を構築。

【例1】従来の課数・座席数はそのまま維持せず、共有ワーキングスペースとテレワークの組み合わせ等で床面積を減らす。

【例2】港や中山間を担当する職員の職場は、現場近くのオフィス等を借用する。

短期目標<～R7(2025)年度>

中期目標<～R12(2030)年度>

長期目標<R13(2031)年度～>

2024.4.1

3億2千万円/年

2026.4.1

12億円/年

2031.4.1

96億8千万円/年

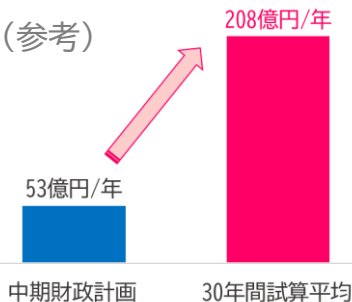
2060頃

128億2千万円/年

POINT

「あり方見直し」とした施設を
全て廃止するというものではありませんが、
施設の最適化はもちろん、管理手法(包括委託)や
更新手法(PPP/PFI)、受益者負担のあり方などのさらなる対策が必要

(参考)



適正な施設維持に
必要となる単年度財源額

150億円/年

「いわき市公共施設等総合管理計画」に基づく

「個別施設計画」



人口減少や少子高齢化、施設の老朽化や大量更新時期の到来など、本市の公共施設等を取り巻く現状が深刻さを増す中、すべての公共施設等をこれまでどおり維持し続けることは不可能です。

市では、今ある施設ありきではなく、これからの時代に必要な機能・サービスの受け皿としての施設のあり方について、具体的に考えていきます。

必ずしも、施設の数＝暮らしやすい・便利、ではないはずです。

何十年にもわたって続く「これまでどおり」を「当たり前」とするのではなく、今こそ一緒に考えましょう！



市長記者会見

案件②

(仮称)勿来地区官民協働勉強会について



1. 趣旨



- 奥州三古関のひとつである「勿来の関」が位置する勿来地区は、古くから東北の玄関口としての役割を果たしてきた歴史性を有するとともに、県境地域に連なる山岳地に代表される豊かな自然環境を有している。
- 本市観光の南部拠点のひとつである勿来の関公園は、古くから桜の名所として、県内外の人々から親しまれている風致公園である。
また、公園内には、勿来関文学歴史館や吹風殿が整備され、様々な催しが行われている。
- このような背景のもと、勿来地区はもとより本市において、次世代に引き継ぐ貴重な財産である勿来関を多角的な視点から学び直すことを基本として、勿来地区の市民の皆様と行政が連携し意見交換を行い、勿来関に関する研究及び一層の交流人口の拡大を図り、勿来地区の活性化を推進すること目的に、今般、
「(仮称)勿来地区官民協働勉強会 ～ ふるさといわきの宝“勿来関”とともに～」
を立ち上げるものである。



2. 取組内容



- 勿来地区に関する情報共有
- 勿来関に関する研究
(有識者をはじめ、勿来関に関する研究成果を取りまとめ「勿来関Q & A」を発行した勿来関研究会などからヒアリングを行い、民間と行政が連携して深掘りする。)
- 勿来関文学歴史館をはじめとした地域資源の魅力向上等に向けた検討
(近隣自治体〔北茨城市・高萩市など〕と連携し、若者を巻き込み観光パッケージを考えるなど、経済界の意見も聞き、円安下で、関東地方からインバウンドを呼び込む拠点化を目指す取組み等)
- その他交流人口拡大に向けた取組み など





● 勉強会参画メンバーの選定・調整

想定する団体等

- ▶ 勿来地区のまちづくり・経済団体
- ▶ 勿来関関係団体
- ▶ 郷土史等有識者・関係団体
- ▶ 行政機関(県・市) 等

● 開催予定

本年7月以降の第1回開催に向け、内容・日程等を検討・調整。

※ 詳細が決まり次第、別途、お知らせします。